

車両基地跡地の検討経緯と今後のスケジュール

平成20年	6月	松山駅周辺土地区画整理事業計画の決定
平成27年	5月	「松山駅周辺地区車両基地跡地利用に関する基本構想」策定
令和 6年	4月	「車両基地跡地広域交流拠点施設基本計画策定業務委託」公募 経済団体からアリーナ整備に関する提言
	6月	文化団体からホール整備に関する要望書
	9月	市長が「JR松山駅周辺まちづくりの将来像」を発表
	11月25日	第1回「車両基地跡地広域交流拠点施設整備検討会」
		⋮



基本計画策定



事業スキーム・管理運営方法の検討



基本設計



詳細設計



建築工事

車両基地跡地広域交流拠点施設の位置付け

上位計画・関連計画

第6次松山市総合計画 後期基本計画（R5.3変更）

①松山市都市計画マスタープラン（H23.3策定）

②松山市立地適正化計画改定版（R6.5変更）

中心
市街地

③松山市中心市街地活性化基本計画
（第3期）（R2.10認定）

公共
施設

松山市公共施設マネジメント基本方針

④松山市公共施設等総合管理計画
（R5.5一部改訂）

⑤第二期松山市文化芸術振興計画（R5.3策定）

⑥松山市スポーツ推進計画（R3.3策定）

⑦松山市こども計画（素案）（R6.10策定）

①高次の商業・業務機能や観光・国際交流機能の集積強化や医療・保健・福祉等の機能充実を図るとともに、様々な人が住まい・交流する魅力空間として都心居住を促進

②市取得予定地は立地適正化計画の都市機能誘導区域（都心地区）内に位置する。誘導施設は、医療/総合福祉/商業（スーパー/百貨店等）/教育/文化（図書館/美術館/博物館/1,000席以上の多目的ホール）

③松山駅周辺地区は、空港や観光港と並ぶ広域交通の結節点であることから、県都の陸の玄関口にふさわしいまちづくりをめざしている。

④施設整備時には、PFI事業等、民間の経営ノウハウや技術力、資金を活用した官民協働事業の可能性を検討

⑤文化施設の整備・運営
文化芸術活動の創造や発表の機会として活用してもらう。
活動を発表する機会を提供するなどして市民の文化芸術活動への取組を支援。

⑥地元プロスポーツの活性化
地域でのスポーツの推進に大きく貢献。市外から多くのファンが観戦に訪れることで、交流人口が拡大し、経済の活性化にもつながる。

⑦こども・若者の 健やかな育ちを支える
こども・若者の居場所づくり。教育・保育の環境整備。

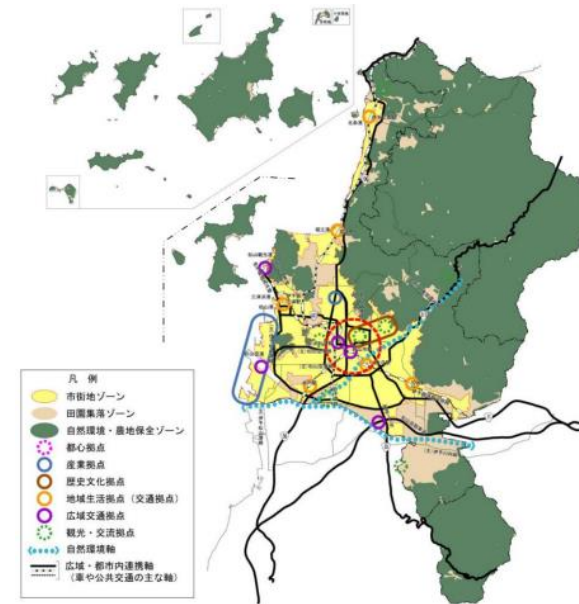


図 将来都市構造（松山市都市計画マスタープランより）



図 中心市街地活性化基本計画区域

車両基地跡地広域交流拠点施設の位置付け

上位計画・関連計画

松山駅周辺地区車両基地跡地利用に関する基本構想

基本方針

- ①駅前立地を活かし、松山の情報文化を体験できる
- ②独自の文化やお接待の心など、松山の「新しい顔」として「松山らしさ」を情報発信する
- ③子どもから高齢者まで、多様な活動や暮らしをサポートする
- ④気軽に集い憩える「交流スペース」で各機能を連結する

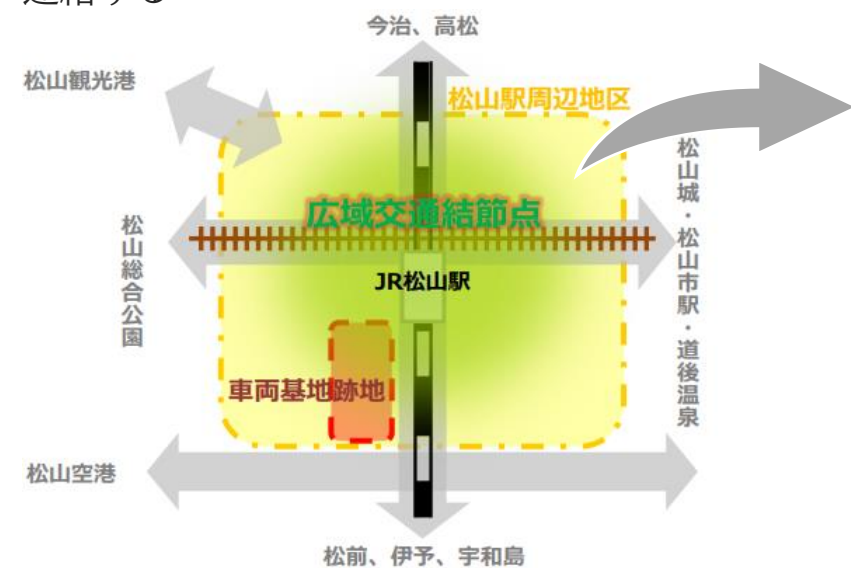


図 広域交通結節点での車両基地跡地の位置関係

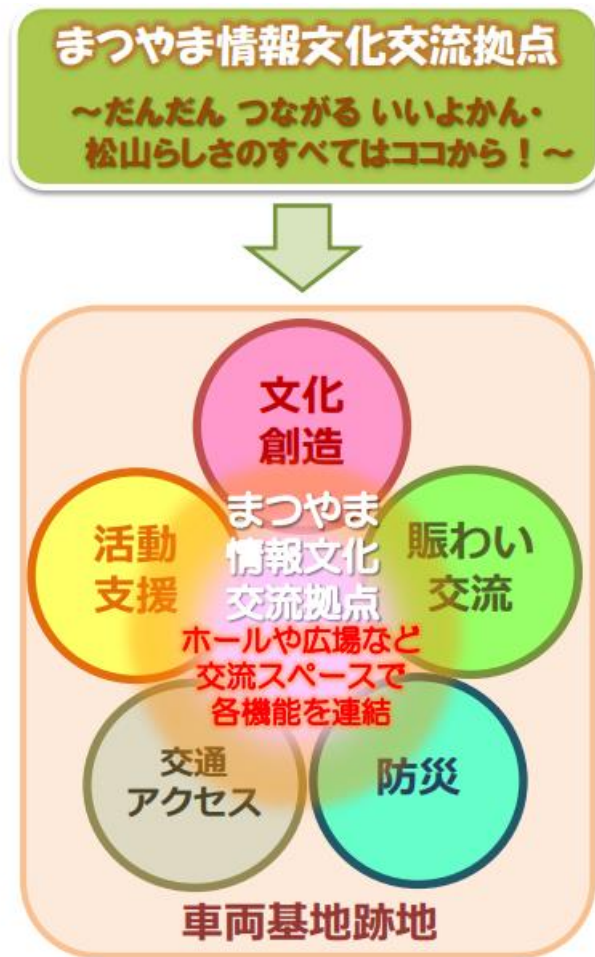


図 車両基地跡地利用に関する基本的な機能構成の概念

基本機能構成

《主要機能》

- ①文化創造：松山文化を創造し、情報発信する機能
- ②活動支援：公益的活動や学習活動の活性化の推進、「子育て支援」「高齢者のくつろぎ」など、暮らしを支えあう活動を支援する機能
- ③賑わい交流：市民の日常的なくつろぎの場や、イベントに参加し、楽しめる賑わい交流機能
- ④交通アクセス：広域交通結節点としての機能
- ⑤防災：屋外避難広場など災害時の地域の防災機能

《交流スペース》

- イベント開催等「賑わい交流」、避難場所としての「防災」の役割も担う。
- ①ホール：市民の文化活動の鑑賞/発表/練習の場。日常の場/非日常の場としての役割が求められる。
 - ②広場：散策/休憩/知り合いと会話を交わす憩いの場。

市内関連施設の状況

類似施設の状況

	床面積	席数	主な 対象者	稼働率(R5年度) 日動	築年 数	施設役割・特徴
松山市施設						
松山市市民会館						
大ホール	—	1,825席	市民	54%	59	コンサート、各種公演
中ホール	—	605席	市民	45%	59	市民発表の場
小ホール	—	200人	市民	34%	59	市民発表の場
北条市民会館						
大ホール	—	547席	市民	15%	44	市民発表の場
北条ふるさと館						
会議室	383㎡	—	市民	51%	30	市民発表の場
子規記念博物館						
会議室	525㎡	600人	市民	—	43	市民発表の場
総合コミュニティセンター						
メインアリーナ	—	2,516席	市民	99%	40	各種の大会(※Bプレミア基準未達)
サブアリーナ	670㎡	—	市民	99%	40	
カメラシアホール	—	988席	市民	73%	38	
北条スポーツセンター						
体育館	1,784㎡	—	市民	98%	13	市民スポーツ活動の場
北条体育館	830㎡	—	市民	100%	43	市民スポーツ活動の場
松山中央公園						
屋内運動場	2,000㎡	—	市民	91%	21	市民スポーツ活動の場

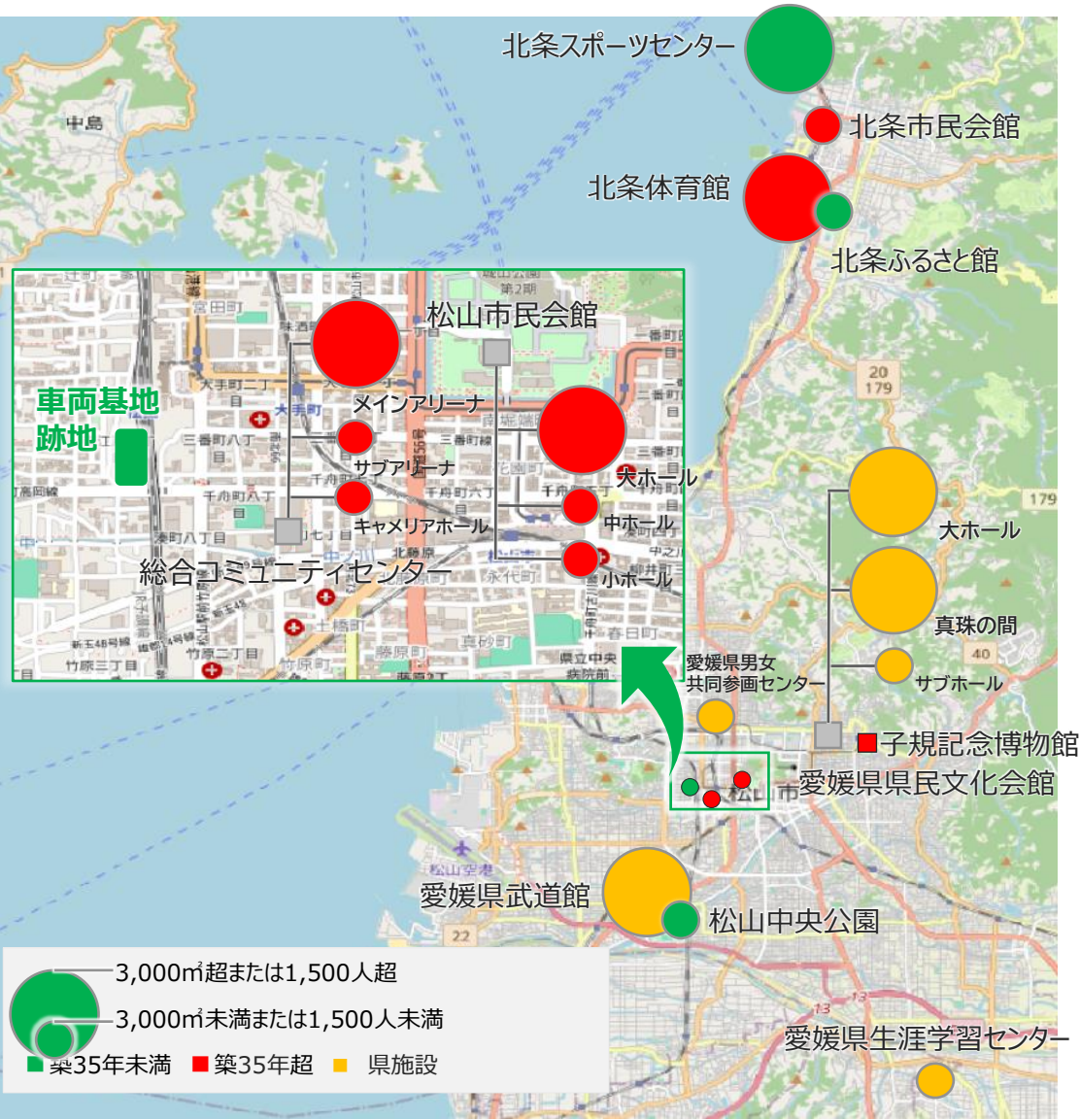
愛媛県施設

愛媛県武道館	—	3,884席	県民 (武道優先)	—	21	武道の使用が優先であり、コンサート、プロスポーツの使用はそれぞれ年間数回にとどまる
アイテムえひめ	—	—	県民	—	28	展示会
愛媛県県民文化会館						
大ホール	—	2,725席	県民	49%	38	コンサート、クラシックコンサート、MICE
サブアリーナ	—	912席	県民	47%	38	市民発表の場、コンサート、クラシックコンサート、MICE
真珠の間	—	*2,000人	県民	52%	38	市民発表の場、MICE *立食パーティ
愛媛県生涯学習センター ホール	—	505席	県民	—	33	県民発表の場
愛媛県男女共同参画センター ホール	—	300席	県民	—	37	県民発表の場

松山市周辺施設

砥部町文化会館 ホール	—	804席	砥部町民	—	23	砥部町民発表の場 ※右記地図範囲外
松前総合文化センター ホール	—	696席	松前町民	—	36	松前町民発表の場 ※右記地図範囲外
IYO夢みらい館 ホール	—	382席	伊予市民	—	4	伊予市民発表の場 ※右記地図範囲外
東温アートヴィレッジセンター ホール	—	66席	東温市民	—	24	東温市民発表の場 ※右記地図範囲外

出所：松山市提供資料



出所：松山市提供資料

松山駅周辺の整備

JR松山駅周辺まちづくりの将来像

※施設等の写真は全てイメージ

- ・ JR予讃線、路面電車、郊外電車（大手町）、バス路線が集まる交通結節点
- ・ 空港リムジンバスや高速バス、将来の四国新幹線などによって、国内外から集客
- ・ 中央商店街や道後はもとより、東予や南予へ送り込む役割を担う



- ・ 経済団体の要望（5,000席程度の多目的に使えるアリーナ）と文化団体の要望（市民の文化活動の場として100席程度の小規模なホール）の両方を実現することを目指す
- ・ 今後立ち上げる協議会で施設の機能や規模などを検討する



- ・ 民間や松山市の所有地を活用し、アリーナやホールで行われるスポーツやエンタメと相乗効果が期待できる施設の民間開発を促したい
(例：子どもアミューズメント施設、飲食や商業施設、アーバンスポーツ施設や交流広場、ホテルなど)
- ・ 地権者の意見、県内外の商業施設や開発事業者のアイデアを募りながら、エリア全体が連動して賑わう開発を目指す

車両基地跡地広域交流拠点施設に導入する機能と規模の想定

導入機能・規模の想定

基本的な機能構成	導入施設	役割、規模
文化創造	ホール	市民の文化芸術活動創造・発信の場 市民のさまざまな活動、発表ニーズに応えるホール (客席数、ホール仕様は未定)
	練習室	市民の文化芸術活動創造の場 規模の異なる練習室 (室数は未定)
	サブアリーナ	市民のスポーツ文化振興、文化芸術活動創造の場 スポーツ興行時の付帯機能を担う場 市民のスポーツ活動、スポーツ興行時の試合前練習のほか、大規模な練習室、興行時のグッズ販売、控室等幅広い利用を想定
賑わい交流	メインアリーナ	スポーツ、ライブエンタテインメント振興の場 Bリーグプレミア基準に準拠した5,000席以上のアリーナ 興行や展示会等での使いやすさも配慮
	広場	気軽に集い憩える交流の場 待ち合わせや休憩、交流イベント等に利用できるホワイエ
活動支援	会議室	さまざまな活動を支援する場 子どもから高齢者まで、幅広い世代の多様な活動に利用 スポーツ興行時は控室、医務室、メディアゾーン等として利用 (室数、広さ等未定)

建物構成イメージ（断面）

